

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題としてみてください。会話が広がります。

令和7年6月27日(金)

21日土曜日は夏至でした。昼間は夏まで長い日です。梅雨末期となるのが通常ですが、来週の天気は晴が続くという例年より梅雨は短くなるような予想もあるようです。雨による災害は心配ですが、雨が少ないうちにも心配です。

令和2年7月、熊本で豪雨災害が発生しました。私達も想定外に備えて物心共に準備しておく必要があります。6月最終週となり、子供達にはもう夏休みが見えてきているようですが、夏休み前は学習において大切な時期です。気持ちを引き締めて復習して欲しいです。

【雑感】不平を言いつつ自分から動く  
「暗い」と不平を言うよりも、進んで灯りをつけましょう。「その通り」と思っているだけでは、最近便利な世の中にならずに、暗い「暗い」であるいは設定を委ねて「曇り」「曇り」...と思いついていないことを、不平不満でつぶやいてしまっている。でも、よく考えてみれば、それは他力本願で、幸せなことを他人の力に頼っていることと同じです。自分で動いて初めて幸せを手に入れることができる。「それを忘れていたのです。」

「これを大人に当てるのはめんどくさい。子どもが言うことを聞かない。だから大声で言いかせよう」とする。それでも言うことを聞かないものだから、とうとう怒鳴り声になってしまふ。子どもに原因を求めるのは簡単ですが、でもその前に、我々自身が動くことが必要になってきます。大人が後ろ姿で模範を示すにはシヨウが必要だと思います。

では、どうすればこのような状況から抜け出すことができるのか？ 私がかかっている簡単にできることを紹介します。「子どもの前では、原則、笑顔です。」そうすると、子どもの笑顔を引き出すことができます。叱らなければいけない時にも効果が倍増します。

大人の社会にも不平不満はあり、それを頻りに口にするのでなく、私の経験では、場の雰囲気を壊し、周囲から孤立してしまふ。組織の課題解決のためには、どうすれば解決できるのかを、まず個人で考え、改善案を仲間と相談し、新たなアイデアを取り入れて組織として改善案を実行することが改革に繋がると思います。他力本願で課題解決はあきらめ、問題が放置され厄化し、個人では解決不可能な事態に対して莫大なエネルギーと時間を費やすこととなります。課題解決の主体意識は行動にも良い影響をもたらします。不平不満で口を閉ざし、同僚性を発揮し組織として課題解決にあたるようになります。これこそが組織のあるべき姿だと思います。私も愚痴りたくなることはありますが、それは教頭先生「愚痴る」のことについています。

## シリーズ「自分を語る」#22

高校時代何に興味があったか...、実はあまりこれが大好きというような拘りはなかったです。世の中には元気があった時代です。私も何となく原付免許をとり、友人からバイクを借りて乗っていました。当時はまだ原付のヘルメット着用は義務化されておらず、考えてみれば危険な時代だったです。アイドルと呼ばれる芸能人が乱立する時代でもありました。今のようには大人数の「○○○」というようなものではなく、アイドルとは別世界にいるような人というイメージが強い時代でした。だからでしょうか、カリスマ的な雰囲気を持つ人達も現れた時代でした。

この頃、大学受験という大きな目標がありました。遊んでいるようで、実は勉強していたなんて自分がいる。何となく嫌な感覚が私を襲いました。小学校時代の仲間が入っていた文化部に顔を出すなど、何となく過剰に高校時代だったように思えます。中学高校と硬派な気取って、つもりでいたが、高学年になり、何となく異性が気になるようになり、それが影響してか、受験勉強も「行け行け」大学に進みました。浪人を親から勧められたにも拘らず、勉強が嫌で「受かりそうだった」という理由から、県外の大学を受験することにしたのです。

大学に入ってから「教員免許が取れないや。教員学部に入ったら先生になれるでしょ。」という甘い考えでいました。勉強はさせられていたという感覚でした。勉強(単位取得)については全く他力本願で、自分で判断して何かをしようという積極性はありませんでした。時間割も仲間と同じにして、何となく講義に参加していました。だから、成績もハズせず、単位取得が難しい講義は、こつこつと落として、再履修する羽目になりました。再履修って簡単に言いますが、経済的な損失は大きいものがありますからね。それくらいいい加減な学生生活でした。今でもあの時学習したことあまり役に立っていません。というより、大学生活って、大人になるための訓練だったような気がしています。負け惜しみですが、我々の仕事は現場で子ども達に向き合えるければ、スキルアップしてあげたい。

そんな学生生活の中でも、2つのめり込んだものがあります。それは、部活とバイクです。部活への参加は、今の自分の性格や仕事に対する意識にかなりの影響を与えているように思います。

入学式後、確か当日だったと思います。私は「小林寺法部」に入部しました。当時、格闘技に興味があり、更にフルス・リーやジャッキー・チェンが人気を博していた頃で、私もめり込んだ訳です。私は大学に何をにに行ったのかと聞かれれば、正直勉強が部活が、どちらかと言えば部活でした。一生懸命やったが、結果も付いてきませんでした。この頃から自己満足の自慢です。(2年生の時、県大会で先輩と有段者組演武の部で優勝し、そのま三連覇しました。全国大会にも出場し、有段者組演武の部で、ベスト16まで進みました。

この頃から少しシビアな話、結果を出すことができない、先輩から主将を任されたのは2年の終わりの頃、リーダーシップを發揮することの難しさを痛感する時間になりました。同級生同士の間関係の調整、先輩後輩の関係調整、監督との話し合い、道院(町なかの道場)との調整、後輩指導の方法、飲み会の作法...多くの場面で主将として行動しなければならなかったことがたくさんありました。当時の私は「天狗」になっていた、女子部員と口論になることが多かった。良かれと思ってやること、裏目に出ることが多かった。部活での経験は、今でも良い思い出、少なからず自分の行動に影響を与えています。このように部活動一色だった大学時代ですが、先にも述べた通り、もう一つのめり込んだものがあります。それがバイクです。(つづく)